

岩手大学、岩手県立大学から講師をお迎えし、進路講演会を実施しました。

- ①「地球温暖化問題と経済」岩手大学 朴 香丹先生
- ②「自分探しの心理学」岩手大学 藤井 義久先生
- ③「低炭素社会における燃料電池の役割について」岩手大学 竹口 竜弥先生
- ④「エコに役立つ世界で唯一の材料の研究と、科学で読み解く宮沢賢治」岩手大学 山口 明先生
- ⑤「“薬”と“毒”の関係ー抗がん薬の開発と毒性研究を中心にー」岩手大学 佐藤 洋先生
- ⑥「看護学入門」岩手県立大学 高橋 有里先生
- ⑦「社会課題を解決する、社会を変革する〜ウクライナ、そして岩手〜」岩手県立大学 桑原 尚子先生
- ⑧「コンピュータと身近な情報」岩手県立大学 阿部 佳宣先生

どの講座も興味深い内容でした。学問の深さと楽しさを学ぶことができました。講師の先生方、お忙しい中花巻北高校での講演をしていただき、たいへんありがとうございました。



環境経済学で環境保全と経済成長という反するものの両立について研究しているのがすごいと感じた。



自分のことを一番知っているのは自分だとは思いますが、それでも全てを知っているわけではなく、知らないことも多いことを理解できた。



今回の講演では日本が世界の最先端である燃料電池やリチウムイオン電池を調べるのはとてもロマンがあると感じた。



最近よく水素エンジンや水素自動車という言葉聞くが、岩手大学にそういう研究をしている先生がいることに驚いた。



今回の講演会では薬の開発に獣医が関わっていることや、抗がん剤のことについて専門的な部分を少し知り、この学問について興味を深めることができた。



「科学的根拠に基づいた看護」「事実をアセスメントの区別」などこれからの看護の在り方、必要になってくることを学ぶことができました。



実際に海外で生活していた先生のお話にもあったように、今の日本の課題を知るためには他の国と比較してみることが必要だと思う。



実際にやって楽しくソフトウェアのことについて知ることができた。コンピュータを使って自ら課題を見つけ、それを解決することができたら楽しみが味わえると思った。